

アイレベル構成要素及びアイレベル施策の役割と特徴 Role and characteristics of eye-level components and eye-level measures

○中村佳乃¹, 松田晃太¹, 森本あんな², 飛田龍佑², 泉山墨威³

*Kano Nakamura¹, Kota Matsuda¹, Anna Morimoto², Tatsunosuke Tobita², Rui Izumiyama³

Abstract: In recent years, eye level has become increasingly important in the formation of walkable cities. Therefore, the aim of this study was to extract and organise eye-level components and eye-level measures, and to clarify the roles and characteristics of eye-level components and eye-level measures. The results show that eye-level measures can be used together in several categories, leading to smooth eye-level formation.

1. 研究の背景及び目的

近年、我が国では「居心地が良く歩きたくなるまちなか」(以下、ウォークアブルシティ)の形成が推進されている。国土交通省は、これからのまちづくりの方向性として、2019年にWEDO(Walkable, Eye Level, Diversity, Open)を打ち出した^[1]。そのうち、Eye Level(以下、アイレベル)は歩行者の目線に入る範囲を示す。アイレベルを形成することは、まちなかでの体験やまちの魅力向上において重要である^[2]。

しかし、アイレベルを構成する要素(以下、アイレベル構成要素)が不明瞭であるとともに、アイレベル構成要素に適応可能な法律・制度、事業、計画(以下、アイレベル施策)を活用する役割、活用する状況が整理されていないことから、円滑なアイレベルの形成へと繋がらない恐れがあると考えられる。

本研究は、アイレベル構成要素とアイレベル施策の抽出・整理を行い、アイレベル構成要素とアイレベル施策の役割と特徴を明らかにすることを目的とする。

2. アイレベル構成要素及びアイレベル施策の特徴

アイレベルについて記載のある文献^{[2]~[7]}から、アイレベル構成要素とアイレベル施策の抽出・整理を行い、アイレベル施策の特徴を明らかにする。

2-1. アイレベル構成要素の特徴

まず、「The City at Eye Level: Lessons for Street Plinths^[2]」を参照し、アイレベル構成要素として、公共空間は「車道」「歩道」、ハイブリッドゾーンは「沿道空地・公開空地」、建物の1階は「沿道1階建物」を抽出した(Figure 1)。さらに、各構成要素に対する詳細なアイレベル構成要素を、アイレベルについて記載のある文献^{[2]~[7]}から抽出し、図示した(Figure 2)。

車道の構成要素は車道幅員、自転車レーン、路肩であった。歩道の構成要素は歩道幅員、街路樹、低木、ベ

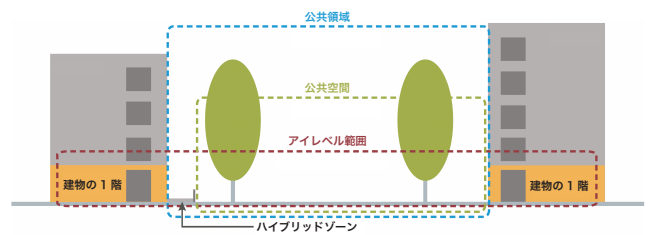


Figure 1. アイレベルの範囲^[2]



Figure 2. アイレベル構成要素

ンチ、広告物、街路灯、建築物の光、テーブル、イス、パラソル、サイクルポート、電柱、道路内建築、舗装であった。沿道空地・公開空地の構成要素は空地、テーブル、イス、パラソル、キッチンカーであった。沿道1階建物の構成要素は、1階建物用途、距離、屋根の張り出し、1階の高さ、開口部、間口、戸口、素材、看板であった。

歩道に対するアイレベル構成要素が13/31件と1番多いことが分かった。このことから、歩道は単なる通行路だけでなく、アイレベル形成に向けて多くの機能を果たす場所であると考えられる。

2-2. アイレベル施策の抽出・整理によるアイレベル施策の特徴

アイレベル施策では、2-1で整理したアイレベル構成要素に適応可能な施策を、ウォークアブルポータルサイト^[8]に記載のある文献^{[9]~[12]}から抽出・整理した。ア

1: 日大理工・学部・建築 2: 日大理工・院(前)・建築 3: 日大理工・教員・建築

